

# 「萩原十吾貞顕の戊辰戦争従軍日記」について

永窪 一宏

一、はじめに

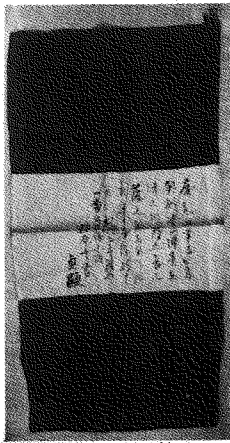
戊辰戦争に参加した薩藩各隊の戦死者や戦病死者については、「殉難人名誌」や「戊辰己巳殉難姓名録」等の文献のほか、全国各地に所在する戦没者墓碑の調査等により、かなり正確な把握がなされているが、各隊のそれぞれの行動については、記述に精疎があり、すべての隊について、必ずしも十分な実態の解明はなされていないように思われる。

川路正之進（利良、のち初代大警視）の率いる兵具方一番隊（以下「兵具隊」と記す。）の行動も、城下各隊に比べると不明な部分が多い。この隊は足軽隊ではあるが、鳥羽伏見戦争の当初から戦闘に参加しており、江戸・房総半島・奥州白川（白河）・会津若松攻略にも、城下一、六番隊や二番砲隊等と共に参加し、戊辰戦争に重要な役割を果たした隊である。黎明館の「明治維新と鹿児島——戊辰戦争」のコーナーには、戊辰戦争に参加した萩原十吾貞顕の従軍日記である「京都合戦軍日記」と「東京奥羽御征伐出軍日記」が展示されているが、この二つはいずれも、兵具隊の行動を理解する上で貴重な資料である。

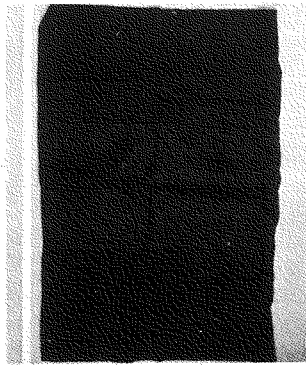
筆者萩原十吾貞顕について、少し触れておきたい。萩原は、天保十三年（一八四二）、市来郷長里村（現在、東市来町長里地区）で生まれている。萩原家は代々兵具方に奉公し、貞顕も嘉永五年（一八五二）に初



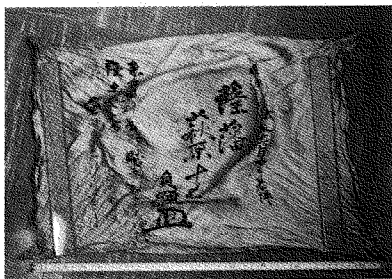
薩摩兵袖印



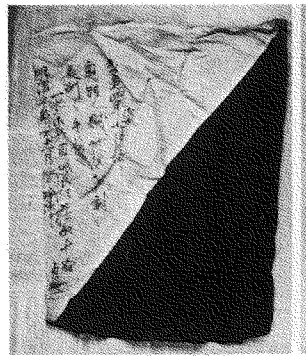
土州兵手旗



薩摩兵手旗

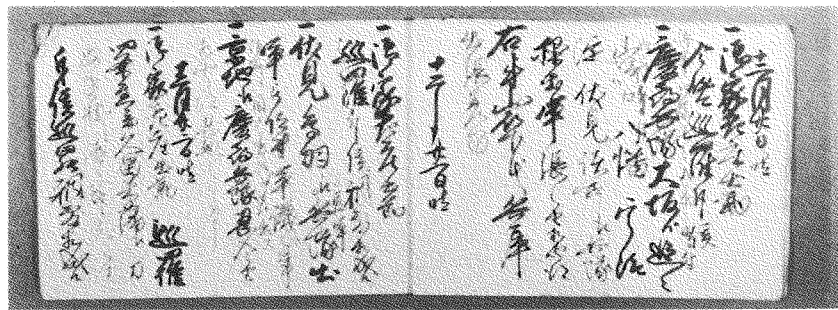


従軍中携行した風呂敷



長州兵手旗

番を勤めている。萩原の「勤方覚留」<sup>⑧</sup>は、その勤務の内容や経過が記されているが、特に注目されるのは、萩原が、しばしば、江戸詰や京都詰を命じられていることである。慶応三年（一八六七）正月にも、「京都詰被仰付、御裁許掛栴山休兵衛殿江被召付、静二・而出立」したとあり、以後、戊辰戦争が開始されるまで在京し、乾御門の警衛や家老座付役として勤務している。兵具隊の主な任務は、斥候・巡邏・番兵であるが、江戸・京都詰を経験し、地理的事情に通じていた萩原らの存在は、戦争中、特に重宝されたと思われる。戊辰戦争後の萩原は、しばらく藩の常備隊に勤務したが、明治四年、兵具隊の小隊長であった川路利良が東京府大属として治安維持を担当することが決ると萩原も東京へ移住し、邏卒となった。その後、明治六年に退職して郷里にあったが、西南戦争がおこると、西郷軍に加わって各地を転戦した。その間、中隊長（常山隊）まで昇進したため、懲役三年の刑をうけている。明治十四年に放免され、以後、鹿児島監獄署などに勤務した。萩原は、多くの日記類や戦場から持ち帰った軍旗などを残したが、これらの資料



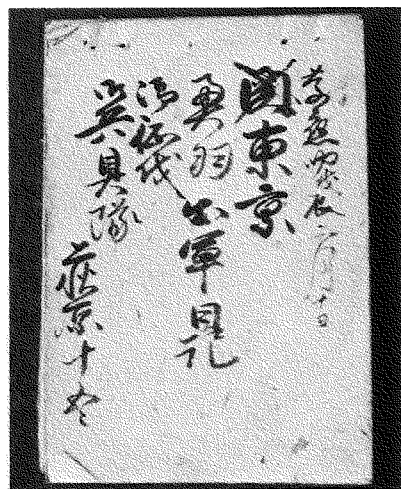
京都合戦軍日記

は、明治維新を研究する上できわめて重要である。

## 二、兵具方一番隊について

この隊がいつ編成されたかについては判然とせず、「鹿児島県史」も藩地出発の年月が慶応三年十月であることのみを記し、隊の編成の事情には触れていない。萩原の「勤方覚留」には、「慶応三年十一月朔日ヨリ一番兵具隊一小隊被召建、旗手役被仰付、其後、小頭職被仰付……」とあるが、「被召建」が、隊の編成を意味するのか、萩原個人の入隊のみを意味するのか、あるいは、以前から在京中で家老座勤務等にあたり、中村徳五郎氏は、小隊長川路止之進は慶応三年に藩主忠義に従って入京したと指摘されているが、忠義の入京は十一月二十三日であるから、小隊長川路が自ら指揮をとり、隊が機能しはじめたのは十一月末以降と考えられる。

次に隊を構成した人々であるが、萩原が明治六年に書いた戊辰戦争の回顧録「慶応四年戊辰將軍慶喜追討合戦一記」によれば、兵具隊は、小隊長一、半隊長一、分隊長一、小



東京奥羽御征伐出軍日記

頭五、旗役一、小荷駄役一、太鼓役一、喇叭役一、兵士八十の合計九十五名で発足したことが記され、小隊長以下喇叭役までの十五名については、その氏名も記されている。兵士八十名については、全員の氏名は知ることができないが、従軍日記や回顧録等から五十名余り(うち九名は途中からの入隊者)が確認できる。隊員の出身地も、半隊長井上猪右衛門以下七名は、市来郷の出身であることが判明している。(次ページ参照)

しかしながら、萩原の従軍日記から、兵具隊の行動がすべて理解できるわけではない。行動の確認できるのは、萩原の所属する半隊のみであり、他の半隊については、「(正月)七日、我隊半隊下坂被仰付候」とあって、その後の消息はつかめない。しかも、萩原の所属する半隊も、二月十一日以降の東征にあたっては、一番分隊(東海道)と二番分隊(東山道)の二つに分れて行動しており、両分隊が合流したと思われる六月七日(白川到着の日)までの期間は、二番分隊の具体的な行動は把握できない。また、小隊長川路正之進が指揮したといわれる「比志島抜刀隊」三十二名についても、この日記からは、隊員の氏名はもちろん、隊の行動も確認できないようである。

### 三、萩原の従軍日記とそのあらまし

萩原が残した従軍日記二点は、彼が兵具隊の小頭として戊辰戦争に従軍していた約十一ヶ月間の行動を記したものである。何日分かをまとめて書いたと思われる箇所もあるが、朱書の加筆部分や末尾の追加部分、それに署名、押印の箇所以外は、従軍中に記されたものと推測される。

内容は簡潔であるが、地名・人名のほか、総督府からの通達や薩軍を指揮した相良治部(長発)の指令などが克明に記されているのが特長である。また、小隊長川路正之進をはじめ、藩主忠義・西郷・伊地知などに関する記事も散見される。

#### 1、京都合戦軍日記

慶応四年十二月九日から翌年二月十日まで、即ち、王政復古の号令の発せられた日から始まり、鳥羽伏見の戦いを経て、関東出兵の命令が兵具隊半隊に下される日までを記している。この期間は、兵具隊全員が京都にあり、萩原らも京都二本松の薩摩藩邸稽古所(撃剣場)に詰め、家老座勤務や巡邏・斥候にあたっている。日記には、巡邏・斥候の際に薩兵間で用いた合詞あひこばもメモされていて興味深い。戊辰戦争が始まると、兵具隊は、正月三日に伏見、四日鳥羽、五日淀、六日には淀・八幡・橋本方面に出兵しているが、萩原個人は実弟上村戸右衛門が負傷(十日に死亡)したため、五日以降は戦列を離れ、相国寺養源院の藩病院で看病にあたっている。また、一月二十五日に「英医師頼入」の記事があり、萩原らは、その後二回にわたって英医師の護衛をつとめたが、この英医師は、ウィリスを指していると推測され、注目される。



兵具方一番隊隊員名簿

階級	氏名	備考	階級	氏名	備考
小隊長	○川路 正之進	7月16日 奥州浅川で負傷、横浜病院へ 9月10日 隊復帰	兵士	高須 太郎三	
半隊長	△井上猪右衛門	二番分隊、4月23日宇都宮で戦死	"	滝間清右衛門	6月20日 入隊（五番隊付役）
分隊長	田中 藤藏		"	竹下平左衛門	1月4日 鳥羽街道で負傷、11日死亡
小頭	中尾惣右衛門		"	○田実 小四郎	
"	○遠武半右衛門		"	田中 藤太	
"	△萩原 貞顕		"	○谷山 宗太郎	6月3日 入隊（大砲隊付役）
"	古河 源介	二番分隊、8月20日奥州玉ノ井村で負傷	"	○玉利仲左衛門	
"	坂口 直之丞	二番分隊、8月18日病氣、三春病院へ 9月2日 隊復帰	"	塚田林右衛門	
"	鎌崎 彦兵衛	二番分隊 7月1日半隊長に昇格 7月21日 小隊長代行	"	内藤 金治	二番分隊 4月23日 宇都宮で戦死
旗役	鎌崎 勘七	1月3日 竹田街道で戦死	"	永井 喜一郎	6月12日 奥州白川で負傷、13日横浜病院へ 9月1日 隊復帰
"	川畑 直太郎	6月7日 入隊	"	永井 彦太郎	
小荷駄役	○深瀬 庄次郎		"	永井 七太郎	
"	△大重 喜十		"	△永井 勇之丞	
"	宇都 岩太郎	二番分隊、4月23日 宇都宮で負傷、横浜病院へ、 7月3日 隊復帰、7月18日 小頭見習	"	永田 源七	
"	久木村勇之進	7月18日 小頭見習	"	△永田 戸次郎	6月11日入隊（六番隊付役）
太鼓役	○牧野弥右衛門		"	永谷 岩之丞	6月7日入隊、7月18日 小荷駄付
喇叭役	森 源之進		"	○西 助之丞	
兵士	○飯田 源之丞	関東出軍 途中戦死（時期、場所不明）	"	橋元善左衛門	
"	石川 源助		"	福島嘉右衛門	
"	伊地知吉次郎		"	藤崎 甚四郎	1月5日 鳥羽街道で戦死
"	○石塚 市太郎	閏4月7日 上総姉ヶ崎で負傷	"	藤崎 吉次郎	7月29日 奥州二本松で負傷まもなく死亡
"	○今村 猪之助		"	○藤崎 壯之助	閏4月7日 上総姉ヶ崎で負傷
"	○岩重 伴次郎	6月3日 入隊（大砲隊付役）	"	藤崎 宗八郎	7月29日 奥州二本松で戦死
"	白井 吉十郎		"	○舞田 奎太郎	
"	○緒方 藤之丞	7月16日 奥州浅川で負傷、横浜病院へ 9月1日 隊復帰、9月3日 小頭見習	"	前田 勇之進	1月6日 鳥羽伏見戦争で負傷
"	○奥新五左衛門	5月15日 江戸上野で戦死	"	松下 愛次郎	
"	○小倉 源七		"	満喜 祐次郎	7月29日 奥州二本松で戦死
"	○折田 渡次郎		"	○宮内 雄七	
"	△上村戸右衛門	1月5日 鳥羽街道で負傷、1月10日死亡	"	本村 戸市	
"	△唐 謙 勘助	5月15日 江戸上野で戦死	"	山内 喜助	6月21日 入隊
"	川口 左一郎	6月11日 入隊（六番隊付役）	"	○山内 喜藤二	
"	川路 万之助	6月20日 入隊（五番隊付役）	"	○山口 元安	
"	○川路 弥四郎	7月18日 小頭見習	"	矢野 泰助	7月18日 小荷駄付
"	○桐野 藤太郎	1月5日 鳥羽伏見戦争で負傷、のち隊復帰	"	○横内 伊太郎	
"	○黒江 嘉次郎	閏4月7日 上総姉ヶ崎で負傷	"	○吉留 伝之進	5月29日 入隊（島津左衛門家来）
"	○黒田 運二	6月12日 奥州白川で戦死	"	四元角右衛門	
"	○坂元 彦之進	5月29日 入隊（一番小隊付役） 7月28日 小荷駄付	夫 卒	岩右衛門	8月21日 母成峠で戦死

○作成にあたっては、萩原の従軍日記や回顧録のほか、「殉難人名誌」「東征戦亡之碑」及び昭和43年における県明治百年記念事業局の殉難者調査結果を利用した。

○氏名に付してある○印は一番分隊に所属した人物、△印は市来郷出身者と推定（東市来町招魂塚と照合）される人物である。

○萩原の従軍日記には、9月12日、5人入隊した記事があるが、その氏名は不詳である。

○表に記した以外に、本村仲太郎及び大山助次郎の2名が殉難者名簿に出ているが、本村は「越後出軍糧彈途中没」大山は「兵具隊京都で没」とあるだけで、死亡の日時などは不詳。

○兵具方一番隊の戦死者及び合葬墓は次のとおりである。（カッコ内の数字は戦死時の年齢）

京都市相国寺…藤崎勘七（30）・藤崎甚四郎（戦直 25）・竹下平左衛門（種氏 23）・上村戸右衛門（清香 20）

東京都大円寺…唐謙勘助（高義 25）・奥新五左衛門（貞顕 25）

京都府報恩寺…井上猪右衛門（長発 28）・内藤金治（兼吉 19）

白河市旧城址…黒田運二（長次 22）・藤崎吉次郎（供時 20）・満喜祐四郎（当寿 24）・藤崎宗八郎（友次 19）・岩右衛門（23）

不明……飯田源之丞（常徳 25）・本村仲太郎（義矩 23）・大山助次郎

2、東京奥羽御征伐出軍日記

慶応四年二月十日から同年(九月八日明治と改元)十一月三十日まで、即ち、兵具隊半隊が江戸へ向けて出発する前日から始まり、萩原が郷里の妻家に帰着するまでが記されている。この間の萩原らの行動は次のとおりである。

- 2・11 京都藩邸発
- 途中、宮・府中・伊豆大場村・保土ヶ谷に滞陣
- 3・12 品川着(13日まで滞陣)
- 3・14 1、高輪藩邸西御門脇長屋に滞陣
- 4・2 15 増上寺の源宝院に滞陣、この間、江戸城接收のため出陣(4・11)
- 4・16 1 閩4・4、大手前歩兵屯所に滞陣
- 閩4・5 1 22 房総半島へ出兵
- 閩4・22 1 5・28 酒井屋敷に滞陣、この間、上野の彰義隊と交戦(5・15)
- 5・29 江戸出軍、古河・宇都宮を経由して奥州へ(萩原は行軍の途中病気)
- 6・7 白川着(25日まで滞陣)
- 6・24 棚倉攻撃(萩原らは白川滞陣)
- 6・26 棚倉着(27日まで滞陣)
- 6・28 堤村へ転陣、さらに釜ノ子村へ
- 6・29 釜ノ子村より川原田へ
- 7・1 堤村在陣

7・2 堤村より釜ノ子村へ

7・3 1 22 釜ノ子村滞陣

浅川戦争(7・16)の際、小隊長川路負傷し横浜病院へ

7・24 釜ノ子村出軍

石川・田母神・三春・小浜を攻略(24 1 28)

7・29 二本松攻撃(8・12まで滞陣)

8・13 須賀川まで玉葉警衛(14日まで滞陣)

8・15 須賀川出軍、横森村着陣

8・16 横森村出軍、本宮着陣(20日まで滞陣)

8・21 本宮出軍、玉ノ井村

揃、坊内峠で戦闘

8・22 猪苗代及び十六橋で

戦闘

8・23 1 25 会津兵との戦闘

及び台場築造

8・26 1 10・2 会津町屋敷

に滞陣し、戦闘及び市

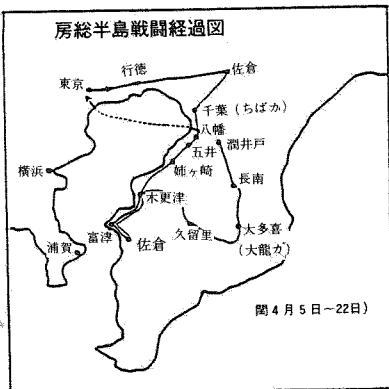
中巡邏

この間、越後口只見川

へ出兵(9・5 1 6)

会津降伏(8・22)

10・3 会津出発、みよ宿泊



10・4 白川着（10日まで滞陣）

この間、福島表まで出張（10・9）

10・11 白川発

10・17 東京日本橋着

10・18 } 19 鮫岡滞陣

10・20 鮫岡発

11・4 京都着（8日まで滞陣）

11・9 京都発、伏見泊（11日まで滞陣）

11・12 伏見乗船、大坂着（16日まで滞陣）

11・17 大坂乗船（浪高く、19日まで新堀滞陣）

11・20 大坂乗船（21日出帆）

11・28 鹿児島着（29日、隊長宅訪問）

11・30 伊集院経由、長里村の実家に帰着

日記には、このほか、寺社や戦死墓所への参詣、名所・旧跡の見物、月々支給される汁代やわらじ銭の額、あるいは、酒会や入湯に至るまで戦闘行為以外のことも多く含まれているが、とりわけ、戦利品の分配規定の記事は興味深い。以下、従軍日記の全文を掲載する。

注①鹿児島県明治百年記念事業局は、昭和四十三年十月戊辰戦争殉難者調査を行

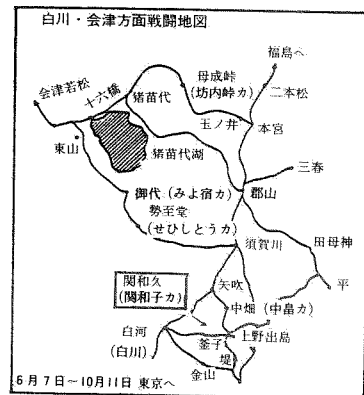
ない六一九名を確認した。その調査地は、京都・東京・宇都宮・白河・高田・新潟・会津若松・山形・秋田・函館の各地であった。

②鹿児島県歴史資料センター黎明館受託資料

③右同（一部展示）

④第三卷四九四ページ

⑤「川路大警視全」（日本警察新聞社昭和七年）



⑥解説にあたっては堂満幸子氏の協力を得た。

#### 四、京都合戦軍日記

慶応三丁卯十二月九

出軍日記

萩原十吾

一、徳川將軍拾四代大平當將軍慶喜追討ニ付出軍日記、是者萩原氏孫子

に永代ノ見物トシテ、出軍之俣を記置 萩原十吾

慶応四年正月三日午後三時比ヨリ伏見及鳥羽二道開戦 貞顕(花押)

慶応三丁卯十二月九日より

京都合戦軍日記

一番御兵具隊

小頭 萩原十吾貞顕

薩隅日之太守嶋津修理大夫忠義公、御所御参殿ニ付、各隊召列乾御門

ヨリ操込

岩下佐次右衛門殿

本營 西郷吉之助殿

伊地知正治殿

慶応三年丁卯十二月九日

我君忠義公、初而御所被為遊御參殿ニ付、兵隊之面々被召列、四ツ時御供揃、尤我隊斥候巡羅ニ而、諸所巡羅いたし、御供揃前、堀川二条城諸所江内藤金治・永井彦太郎同道差越、且又二条城江大将軍徳川慶喜兵隊を以諸所固、会津肥後守儀兵隊召列、二条城之様操込、家来共鎧着各手鎗・鉄砲・長刀持出軍いたし段見届、御屋敷江立歸り、本営江右成行届申出、外將軍付之大名各々二条城江出馬有之候

一、忠義公兵隊被召列御參殿、大砲隊・白砲隊・小砲隊出軍、御所勿論諸所兵隊を以固め、薩・長・土・芸・彦根・越前・肥後・固メ

一、慶喜兵隊ハ勿論、鞍馬口・黒谷・大師・堀川・北野諸所出張

一、御兵具隊儀斥候巡羅兵ニ而、稽古所江扣、本堂御差図次第巡羅いたし届申出候事 問詞サツカ、答オノイ

一、御歸殿夜九ツ時

一、出軍兵隊之儀、諸所江陣屋取被固置候事

十二月十日 晴

一、四ツ半時御供揃御參殿、兵隊之儀者昨日同断斥候巡羅

一、御名寫津修理大夫、議定職被仰下候事、口宣追而可賜候事、今度大樹奉歸政柱、朝廷一新之折柄、弥以天下之人心居合不相附おゐては、追々復古之典、難相行、深被脳宸襟候、且来春御元服并立居追々御大礼被為行、且又先帝御一周ニ相成候ニ付、猶又被思食候間、先年来防長之事件被是混雜有之候へ共、美太之御所置被為在、大膳父子末家等被免入路、官位如元被復候而被仰出候事

十二月十日夜

一、陣所より御酒并鯛被成下頂戴仕候 問詞サツカ 答サツ

十日夕方

一、蛤御門固、会津肥後守相勤居候処、被御免備前江被仰付候事

一、夜四ツ半時、長兵隊之面々相国寺江操込、人数九百七拾四人、兵食之儀御屋敷より手当、且山崎官門之固伊州藩ニ付、長勢向トシテ井上猪右衛門・田中藤太被差越事

十二月十一日

一、兵隊固巡羅番兵、問詞山カ、答山、御酒鯛頂戴仕候、兵食五度も被下候

十二月十二日 晴

一、出軍兵隊巡羅斥候、日々稠敷相成、尤会津人手鎗ニ而巡羅相見得候

一、尾州殿二条城江登城ニ而、慶喜下坂被申付候

一、今晚慶喜勿論会津・桑名外ニ二頭大名相付、大坂之様差越、尤兵隊召列夜白下坂事 問詞サイ、答ソイ

十二月十三日

一、出軍巡羅番兵、軍張日々稠敷事 問詞一カ、答二

十二月十四日 雨

一、出軍巡羅番兵、各隊江金式朱ツツ鳥汁代トシテ被下候

十二月十五日

一、各隊陣屋固場一同御引取、兵食四度ツツ

一、慶喜付大名兵隊、今日迄下坂いたし候事

一、巡羅斥候各隊操廻を以相勤候事

十五日夜、伏見ヨリ川船五円ニ而、トマヲカフリシノビニ川下り、

途中者諸所將軍兵隊ヲ以固メ

一、大坂陣營御軍役奉行黒田嘉右衛門殿江御用有之、井上猪右衛門同道いたし下坂、尤西郷吉之助殿より黒田氏江文箱江被遣、兩人之間金五

兩被下候、伏見川船之儀將軍より川留ニ付、近衛殿御内伊原氏江相談いたし、小船壹艘売物金四百兩也、とうまかふり暁七ツ時着坂、直ニ黒田氏江御用封差出置候事、はひま屋滞在

一、大坂諸所天下勢ニ而固めいたし、諸所江操出シ大そうと、尤慶喜ハ城中之由、大名ハ諸所江

十二月十六日

一、夜五ツ時乗船、長藩兩人召列川登

同十七日

一、四ツ半時着京、西郷氏江届申出、長藩相国寺江長陣營ニ付案内、直

ニ御家老座出勤、今晚巡羅

十二月十八日 雪ふり

一、御座出勤、岩下佐次右衛門殿兵庫江出張ニ付、我隊之内より古河源

助・田中藤太・篠崎勘七・大重嘉十・久木村勇之進・宮内雄七・松下愛

次郎・福島嘉右衛門・本村戸市・拙者、都合拾人金三兩ツツ被下候

十二月十九日 晴

一、御座出勤、今晚仁和寺宮様御警衛トシテ、我隊一分隊出張之事、右

警衛土州・尾州・越前・芸州・薩州操廻を以相話事、御賄被下候

十二月廿日 晴

一、御家老座出勤、今晚巡羅斥候

將軍兵隊又々入京之由ニ付、巡羅斥候

一、慶喜兵隊大坂より追々山崎口・八幡・宇治・淀・伏見、諸所江兵隊操出、軍張之由相聞得、右ニ付岩下氏兵庫出張差留

十二月廿一日 晴

一、御家老座出勤、巡羅斥候稠敷相成候

一、伏見鳥羽江薩軍兵隊出軍被仰付、軍議之事

一、京地江慶喜兵隊忍入候由相聞得、忍廻之事

十二月廿二日 晴

一、御家老座出勤、巡羅、四条辺ニ而久留米藩江刀ぬき掛、直ニ遊去之

由、斥候巡羅稠敷相成候

十二月廿三日 晴

一、巡羅斥候、我隊ハ昼

同廿四日

一、御家老座出勤、夜巡羅斥候致候

同廿五日 曇

一、御家老座出勤、巡羅

同廿六日

一、御座出勤、巡羅

同廿七日

一、於御所、薩藩・長藩・土藩・芸藩、各隊御見分之事、今晚斥候巡羅

十二月廿八日

一、御家老座出勤、岩下氏より金貳分ツツ被下候

同廿九日

一、御座出勤、巡羅



同晦日 雪ふり

一、御座出勤、巡羅、島津氏より金百疋ばしやう壹反ツツ被下候、関山氏より金貳分ツツ被下候

改年戊辰

正月元日 曇

一、御家老座出勤、年頭廻之事、同役田実小四郎病氣、先月苦勞銀百疋相請取

同二日

一、巡羅

同三日 曇

一、慶喜兵隊惣而大坂出軍、川陸登取早伏見鳥羽ニ相掛、固場所押通り段被申候ニ付、左様候而者砲戦相成候段申聞候へ共、其儀も不聞入、七ツ時より鳥羽合戦相成候処、伏見も同断大砲小砲を以合戦、未味方戦死無之敵死人多有之由相見得候、諸所合戦之場所焼払、尤伏見御屋敷も会賊より火掛焼払候、我隊も出陣之願候へ共、未本營より差留、夜五ツ時斥候、伏見迄橋元甚左衛門同道ニ而差越、伏見戦争之場所火本見届竹田之様帰陣、右成行本營江申出我隊も出兵被仰付、伏見黒門手前より鳥羽江横矢を入候所、籠手篠崎勘七戦死いたし直ニ帰列候、此合戦ニ久木村勇之進敵吉人付留昼夜砲戦

正月四日 晴

一、鳥羽出兵、直ニ砲戦相成、我隊之兵士竹下平左衛門手負、同所一泊正月五日

一、淀近辺砲戦、我隊之兵士藤崎勘四郎戦死、上村戸右衛門・前田正之

進・桐野藤太郎手負いたし候、同所一泊

一、戸右衛門召列、永田源七同道ニ而京都二本松御屋敷病院迄列歸り、養生かん病相付候、尤淀より加籠賃銭之儀は小荷駄方払

正月六日

一、淀・八幡・橋元合戦之由

一、病院江忠義公御見舞之事

一、戦死林光院江祖敷

一、弟戸右衛門五日手負ニ而十日四ツ時死去、林光院江祖敷、惣而御物払

一、三日夕より六日迄昼夜合戦、敵戦死手負多有之、数不相分、然共千五六百人討死之由、薩討死四拾七人、跡より手負死人有之候、賊兵大坂之様逃去ニ付追討之処、大坂江は火掛又々逃去行得不知、城中分取長州

正月六日

一、橋元帰陣之上、各隊江御酒并鏗節被下頂戴

同七日

一、我隊半隊下坂被仰付候

同十日

一、上村戸右衛門死去ニ付

同十六日

一、戦死人數鬚髮取揃、本堂御用封ニ而御下シ

一、戸右衛門七日ニ付法事、今晚より市中巡羅

同廿一日 雪ふり

一、巡羅 各隊 江御酒并九年母式箱被下候

同廿二日 同廿三日

一、市中巡羅斥候

同廿五日

一、太守公 戦死人数 江御法事ニ付、御代参関山糺殿被相動候

一、手負人数 江英医師御頼入ニ而相国寺病院着番、直ニ病院見廻

正月廿七日

一、英医師市中見物ニ付警衛、土藩五藤昌次郎宿陣、昼飯差出事

同廿八日、同廿九日

一、巡羅斥候

二月六日

一、戦死自物御物方より御下シニ付、御兵具所 江差出シ

二月七日 夕雪ふり

一、英医師下坂ニ付警衛、都合八人、老人ニ付金四両ツツ被下、伏見高

道夕飯川下り

同八日

一、今朝着坂、滞在

二月九日

一、大坂出立、平方登、中途ニ而関東御征伐被仰付候段承り、夫より石

水八幡 江参詣仕、記願御禱トシテ金百足社家 江相頼置候事、但同所 江一

泊仕事

同十日

一、八幡早天出立、鳥羽筋京地、土御門様うら手之御守申請候、二本松御

屋敷帰着、直ニ外 江売物トシテ差越候、明日出軍ニ而大取込、自物之儀  
は塚田林右衛門 江相頼置事  
萩原十吾<sup>⑩</sup>

明治元年書留

源貞顕<sup>⑪</sup>

是ヨリ東海道先鋒出軍日記荒々記置、永々見物ニ候 萩原十吾貞顕

江戸ヲ東京ト改所ニ相成候

五、東京奥羽御征伐出軍日記

慶応四戊辰二月十日

東京

奥羽 出軍日記

御征伐

御兵具隊 萩原十吾

<sup>〔本山〕</sup> 関東之儀ハ東京に成り

一、東海道先鋒総督府参謀 西郷吉之助殿 副 相良治部殿

一、東山道先鋒総督府参謀 伊地知正治殿 副 乾退助殿

<sup>〔國〕</sup> 慶応四年戊辰二月十日 雨

一、東京御征伐ニ付、御兵具隊半隊出軍被仰付、難有御請仕候

一、一番分隊之儀、東海道之様、小隊長川路正之進殿、小頭遠武半右衛

門殿、拙者同役、兵士式拾人、小荷駄付兩人、医師老人出軍

一、二番分隊之儀、東山道出軍、半隊長井上猪右衛門殿、小頭坂口直之丞

殿、篠崎彦兵衛殿、兵士式拾人、旗手老人、小荷駄付兩人

二月十一日 雨

一、京都御屋敷於御式台御目見被仰付御酒被成下候、御本門操出、乾御門・南御門御參礼、堺町御門・寺町通・三条通・大津駅昼飯、草津泊り

一、本宮相良治部殿、西郷吉之助殿出軍之事

一、御賄之儀ハ惣而朝廷より被成下候、官軍御用宿等有之候

二月十二日 晴

一、草津出兵、石部昼飯、水口泊り、宿札之儀ハ官軍薩摩兵具隊等有之候

候

二月十三日 晴

一、水口出兵、坂之下昼飯、龜山泊り

同十四日 雨

一、龜山出兵、四日市昼飯、桑名泊り、当城之儀ハ尾州藩御預り被仰付候、(朱)今晚女遊会之事

同十五日 晴

一、桑名出船、宮泊り、(朱)今晚女遊会之事

同十六日 晴

一、宮滞陣、御達シ左之通、大村藩、佐土原藩、長州藩、薩州藩、合四藩、明十七日尾州宮駅發途いたし、別紙休泊之通進撃、駿府江相揃、猶御指揮相待候様、總督府副將御沙汰候事 二月十六日 參謀

別紙之通、先鋒總督府被仰渡候付而者、四藩入交一時通行いたし候事候間、決而不作法之儀無之様、屹と談合可致置候、宿々番兵等被差出候節ハ追而御達シ可相成候付、夫迄ハ右手差ニ不及候、左候而明日より出立刻限之儀ハ四ツ時に毎日相定候ニ付、一同可相心得候、尤旅籠并人馬等之儀ハ是迄之通、駅々領主江總督府より御達シ相成手当有之候間、是

又承知いたし候ニ付、決而猥間敷儀無之様可被申合置候、此旨及通達候

一番隊・二番隊・三番隊 相良治部

大砲隊・白砲隊・御兵具隊

二月十七日 雨

一、宮出兵、鳴海昼飯、池鯉鮒泊り

同十八日 雨

一、池鯉鮒出兵、岡崎昼飯、藤川泊り

同十九日 晴

一、藤川出兵、御油昼飯、吉田泊り

同廿日 晴

一、吉田出兵、白須賀昼飯、新井船渡シ、舞坂泊り、酒会いたし蛤汁有

同廿一日 雨

一、舞坂出兵、篠原村ニ而西尾隠岐守様より昼飯被成下、浜松泊り

同廿二日 曇

一、浜松出兵、見付昼飯、袋井泊り

同廿三日 晴

一、袋井出兵、掛川昼飯、日坂泊り

同廿四日 曇

一、日坂出兵、嶋田昼飯、藤枝泊り、今朝当駅会藩相見得候段相分、直府中迄差越候様、相良治部より相達シ、早加籠拾人差越西郷吉之助江引会候

二月廿五日

一、府中滞陣

同廿六日 晴

一、府中出兵、江尻昼飯、興津泊り、京都より隊長川路正之進着

同廿七日 晴

一、興津出兵、蒲原昼飯、吉原泊り、本宮方江拜借申出金式兩ツツ相濟

同廿八日 曇

一、吉原出兵、原昼飯、沼津泊り、酒会之事

同廿九日

一、沼津出兵、三嶋泊、伊豆下茂田海道番兵

一、輪王寺宮様東京御發途御上京之由、付而者別紙之人数為警衛隨從有之様ニ候、右通行之節者一応差止可申候、併御上京之旨越柄御弁解ニ相成、是然通行御頼被成候節者、別紙警衛之兵隊ハシモ御差通、宮御一方平常之御供廻りニ而御通行可有之候様掛合可被有之候、総督府御沙汰候条

各心得有之事

内藤紀伊守、水の出羽守、松平左衛門尉、本多能登守、井伊右京亮、

秋元但馬守、松平中務大夫、久世讚岐守、間部下総守、黒田筑後守、大

岡主膳正、増山对馬守、板倉摂津守、右輪王寺宮警衛

一、明廿六日五ツ時出立ニ而進軍可致候間、外三藩江致談合候ニ付、是より隊中之輪番を以宿陣之場所は一宿中之前後、先鋒より番兵差出可被

置候、付而者宿中之巡邏并前後之所ハ外三藩江可致談合、一ヶ所丈之操廻を以被相勤候様可被致候、此旨及順達候、以上

但、今日宿外江番兵差出候故、長州大村ハ宿中巡邏可致旨承り

御兵具隊 外略ス

相良治部

一、二月晦日 雨 三嶋出軍、下茂田海道大場村江御兵具隊出張、

昼夜番兵相守事、隊長始庭鳥并酒会之上女江手掛候人も有之、科料式朱ツツ

一、三月朔日 曇 大場村滞陣

一、二日 曇 滞陣、にら山城見物、小名村入湯

一、三月三日 雨 大場村滞陣、官軍印錦之御旗大総督府より相渡り、今晚拾七人乱髮成有之、右ニ付宿手亭庭鳥・肴・酒杯差出ちそう、

左候而髮毛箱根権現御社江奉納候事、拙者同断

一、三月四日 雨 大場村出軍、箱根昼飯、小田原泊り、昨夜乱は

ち毛箱根権現御社江奉納參詣

一、三月五日 曇 小田原出軍、大磯泊り、隊長始、遠武半右衛門・

山口元安・黒田運次・横内伊太郎・牧野弥右衛門・深瀬庄次郎・石塚市太郎・藤崎壮之助・山内喜藤二・西助之丞・田実小四郎・小倉源七・

此人々大場村滞在之砌、美少人又ハ女江心掛、色々吟味之訳有之、科料式朱ツツ

一、同六日 晴 大磯六ツ時出軍、藤沢四ツ半時泊り、藤沢山上人

目見いたし候

一、三月七日 晴 藤沢六ツ時出軍、戸塚昼飯、保土ヶ谷泊り、隊

長初横濱行

一、同八日 保土ヶ谷出軍、横濱見物、隊長江戸江被差越聞合之事

(朱) 帽子買入、永井勇之丞 女帽子買入江戸ニ而 大はら

ひ、横濱者英国ノ赤隊ヲ以堅メ

一、同九日 晴 滞陣

一、同十日 晴 隊長江戸より帰り

一、同十一日 晴 保土ヶ谷出軍、川崎泊り、川口江番兵

一、同十二日 曇 川崎出軍、品川泊り、今晚本宮より東山道先鋒

迄御用有之、永井七太郎同役ニ而上板橋迄差越、十三日朝品川迄帰り

一、同十三日 品川滞陣、遊会、高輪御屋敷見分

一、同十四日 晴 高輪西御門御長屋江転陣

一、同十五日 晴 高輪滞陣、大円寺墓所参詣、夫より愛宕山江参詣

一、三月十六日 当番、夕方より隊長始、宮内・横内・山口同道ニ

而永坂そばや差越

一、同十七日 晴 非番、御殿山・品川台場見分、宇田川や蛤鍋ニ

而酒会

一、同十八日 晴 当番、京都より石川源助・川路弥四郎着陣

一、同十九日 非番、牧野・折田・横内・舞田同道芝辺江差越帰掛

入湯、今晚黒田連二同道遊会事

一、三月廿日 晴 当番、大磯より高輪迄数駅之間斥候巡羅且番兵

等夫々相備、緩急首尾相応處隙無之様、各藩中談合可然分屯、各箇敵衛

有之様、総督府御沙汰候事

薩藩 先鋒総督府参謀印

別紙之通総督府より被仰渡候間、此旨通達いたし候、以上

御兵具隊外略ス 相良治部

戦兵飯田源之丞儀緒方藤之丞着陣、太守公より御酒被成下

一、三月廿一日 晴 非番、緒方藤之丞同道芝辺江差越

一、三月廿二日 晴 当番 同役江頼置外方江差越事、川路・宮内

同道遊会

一、同廿三日 半雨 非番、大重喜十京都之様出立

五俵唐鎌助・藤崎壮之助・黒江嘉次郎・永井勇之丞

五俵緒方藤之丞・石塚市太郎・玉利仲左衛門・永井七太郎

五俵川路弥四郎・西助之丞・舞田李太郎・折田渡次郎

五俵宮内雄七・小倉源七・横内伊太郎・今村猪之助

五俵黒田連二・田実小四郎・桐野藤太郎・山内喜藤二

右四列與合之事

一、三月廿四日 晴 当番操合、両国向島辺江花見トシテ 川路・

緒方・桐野・玉利・川路・宮内・小倉・横内同道差越、暮時分帰り

一、大丸挑灯一張、右ハ御兵具隊入用トシテ相請□事

三月廿五日

小荷駄方 御兵具隊小荷駄付

一、三月廿五日 当番 深瀬庄次郎

一、同廿六日 晴 非番、山口元安・緒方藤之丞同道切通シ芝近辺

江差越帰り

一、三月廿七日 当番、宇田川出張、酒会

一、同廿八日 雨 非番、巡羅、長州番兵所江徳川臣兩人通掛、品

川辺巡羅之由、付而者差帰り

一、同廿九日 雨 当番 遊会

中蠟百挺・中小蠟百挺、右ハ御兵具隊入用トシテ相渡候様、被仰渡

奉存候 以上

三月

深瀬庄次郎

小荷駄方

一、同晦日 晴 非番、川路・宮内同道芝辺江差越、帰掛入湯

一、四月朔日 晴 当番

一、同二日 晴 増上寺之内源宝院江転陣、赤羽門番兵

一、御親征日限御延引之所、来廿一日御発途、石清水社御参詣、同所御

一泊、廿二日森口御一泊、御着坂其後海軍整備勲賢可被為在之旨、被仰付候事

三月十五日

但、太政官代移候儀者先被止候事

一、東山道官軍先鋒既及戦、賊軍敗走之旨ニ者候得共、東海道亦如何共難計趣言上有之、旁々以海軍出帆被差急、御出輦被遊候条、各其分相心得出格勉勵可之旨御沙汰事

三月十五日

一、今般王政御一新、万機從朝廷被仰出候付而者、皇国内遠邇なく蒼生安堵致し候様、日夜御憂慮被為在、断然御親征行幸被仰出、尚海軍整備天賢被遊、関東平定之上は速ニ還御被在、大ニ列聖之神靈被為奉安度深重之思召ニ付、上下心得違無之様、各相勵可尽其分御沙汰候事

但、億兆之君へつかへ、天職を被為尽、御親征行幸被仰出候處、委ク御趣意を不弁者共、只今朝廷御上を奉按候故か、或者一家之盛ニ衰目前栄利を相考候故か、全体之御危急をしらす、種々之浮説唱へ、彼是疑惑を生し候儀も有之哉ニ相聞得、甚以如何之事ニ候条、末々至急度安堵致シ全業を可嘗候事

一、四月三日 半雨 増上寺之内滞陣、当番

一、同四日 非番、川路同道遊会

一、同五日 雨 当番、入湯

一、同六日 雨 非番

一、四月七日 当番、入湯

一、同八日 晴 非番、赤羽番兵、愛宕山江緒方・唐鎌同道参詣

一、同九日 晴 当番

一、同十日 晴 非番、明十一日江城江進撃被仰出、製作方より玉

葉等請取用意

一、同十一日 江城請取方付而者六ツ時揃、此隊斥候隊ニ而先鋒江

進撃、西之久保・桜田門・大下馬より百人番所迄入城いたし候処、追々本隊面々入城、又大下馬之様引取候段本營より沙汰ニ付、大下馬江扣置

八ツ時城請取、尾州藩江御預被仰付候、此藩・長藩・尾藩・大村藩・佐

土原藩・備前藩・肥後藩一同進撃、武具請取、官軍惣勢陣營之様各藩引

取、御酒被下有之候

一、四月十二日 晴 今晚巡羅通行之節、堀押込有之、差越候処遊

去、赤羽番兵

一、太守公、御酒料トシテ隊長以下夫卒迄金百足ツツ被成下有之

一、四月十三日 当番

一、同十四日 晴 非番、暁七ツ時、西丸下奇兵屯所江進撃、尤肥

後藩預り奇兵ニ而、武具不相渡付而者、長藩操出請取、又々肥後藩江相

渡置

一、四月十五日 曇 当番、大総督有栖川宮芝増上寺之内御着陣

一、四月十六日 晴 増上寺之内より大手前奇兵屯所江転陣、尤当

所は肥後藩預り奇兵請取、宿陣、門江番兵

一、同十七日 晴 当番、夏分衣裳料五兩宛相渡

一、同十八日 晴 非番、士官羽織買入三兩也

一、同十九日 晴 当番

一、同廿日 晴 芝辺江差越、非番、酒会

一、同廿一日 雨 当番

一、同廿二日 雨 非番

一、三道出兵之内間二者

一、四月廿三日 曇 当番、千住宿江慶喜賊兵三百人余押寄、佐土

原藩操出跡ニ而、此藩一番小队・大砲隊進撃ニ付、斥候トシテ緒方藤之

丞同道千住迄差越、直歸り武具請取方相成候、右賊兵之内会藩も有之由

一、同廿四日 晴 非番

一、同廿五日 曇 当番

一、同廿六日 浅草・両国見物、今晚山口元安同道遊会

一、同廿七日 当番、野州宇都宮城下より永田源七・藤崎壮八郎着

陣、去ル廿三日石城下集屯之賊兵合戦、此隊之半隊長井上猪右衛門戦死

兵士内藤金治戦死、小荷駄付宇都岩太郎手負いたし候段申来候、外ニ此

藩戦死拾三人、直ニ永田・藤崎両士宇都宮之様帰陣

一、四月廿八日 雨 非番、吉原・浅草辺江緒方・石塚同道差越、

西郷吉之助殿帰京ニ付、宇都宮戦死所品等右之付役大坂之様持参被いた

し、宿所江状遣

一、四月廿九日 当番、西郷吉之助殿蒸気船江乗付出帆

一、閏四月朔日 晴 非番

矢入、賊兵逃去

一、同二日 当番、下総国八幡集屯賊等、筑前藩合戦、佐土原藩横

行徳此辺合戦之由、此隊より斥候藤崎壮之助・黒田連ニ差越帰陣

一、同四日 雨 当番

一、薩藩江

下総国行徳辺ニ於、筑前勢交戦之処大敗ニ付、今日長藩為越口彼地江

分隊為致候条、其藩当地留屯之兵不残彼地江進軍、長藩江合兵必勝之配

運可有之事

辰閏四月四日

明五日出軍ニ付而者、弥船より操出シ之管御座候ニ付、万端小荷駄方

江引合、夫々手拔無之様可被致、尤刻限之儀者五ツ時揃、此段順達事候

以上

但、留より返納可有之候

閏四月四日

御兵具隊外略ス

一、閏四月五日 曇 大手前出兵、龍之口神田橋より乗船、日本橋

下り、下総国行徳江着陣、昼飯いたし直ニ大和田迄進軍、一泊いたし候

一、同六日 曇

堀田相模守城下 大和田六ツ時出軍、佐倉昼飯、ちば一泊、但佐倉

一月七日 六ツ時出軍、上総国八幡・五井・姉ヶ崎集屯賊兵八幡合

戦、右三ヶ所追討大勝利、七ツ時分姉ヶ崎陣を取一泊、此隊手負藤崎壮

之助・黒江嘉次郎・石塚市太郎、右合戦官軍薩藩・長藩・大村藩・佐土

原藩・伊州藩・備前藩、今晚巡邏

一、姉ヶ崎水野肥前守陣屋有、当所江賊屯所、然処木更津逃去行

一、閏四月八日 六ツ時姉ヶ崎出軍、木更津着陣、賊兵逃去行、合戦無之候

一、仮野林肥後守陣屋江焼払、右林も賊共に逃去、出火ニ付諸所江番兵等差出置事

一、同九日 木更津滞陣

一、同十日 晴 外隊者江戸江帰陣ニ付乗船出帆、本営并此隊滞陣

一、閏四月十一日 晴 滞陣、塩浜江蛤取トシテ差越候事、隊長儀

富津陣屋聞合として被差越候、房州勝山辺賊兵集屯之由

一、同十二日 晴 出軍、大村藩、伊州藩同道富津迄出兵宿陣、緒

方藤之丞保科弾正忠陣屋迄被差越候、佐貫城阿部駿河守陣屋聞合帰リ、

富津より隊長儀作岡辺迄聞合トシテ被差越候

一、同十三日 富津滞陣、此前浦賀之由、昨夜より蒸気船一艘行帰

又ハ塩掛いたし、聞合候処慶喜之船之由、夜四ツ時分隊長房州勝山辺よ

り帰陣

一、閏四月十四日 晴 暁七ツ時富津出軍、佐貫入場、大村藩・伊

州藩同道、尤城明渡シ宿陣、阿部駿河守儀賊兵共ニ逃去、湊より乗船之

由、湊迄斥候トシテ緒方・黒田・田実・永井同道差越直帰陣、今晚保科

公より酒三合ツツ被下頂戴いたし候

一、同十五日 半雨 佐貫出兵、木更津一泊

一、同十六日 晴 木更津出軍、久留里一泊ちそう、但黒田筑後守

城下

一、同十七日 晴 久留里出軍、大瀧宿陣、当所江先鋒総督柳原殿

滞陣、当城吉田藩江御預被仰付候

一、隊中分捕品之究

一、敵討留候人ハ其武具を当人取、又金子半分取

一、分捕品々四ツ割一分持参人江遣、跡を隊中

一、先達姉ヶ崎合戦之砌分捕金有之、配分一兩ツツ

一、役掛江黒田運二より庭鳥并酒差出軍

一、閏四月十八日 小雨 大瀧滞陣ニ而隊中酒会

一、同十九日 滞陣 大村藩取会酒吞

一、同廿日 先鋒総督府始出軍、長南一泊、総督府警衛大村藩

一、同廿一日 雨風 長南出軍、潤井戸一泊、総督府警衛前候へ共

不いたし候

一、同廿二日 晴 潤井戸出軍、登戸乗船、江戸日本橋江着陣、酒

井屋敷江操込

一、閏四月廿三日 半天、酒井屋敷滞陣、雨合羽取入壱分式朱、金壹兩

式分、右三月中御賦

一、同廿四日 滞陣、三条殿・西郷殿着陣、姉ヶ崎合戦之砌小銃一

挺分取売払式両式分之内式分式朱請取候

一、同廿五日 本会屋敷御用之者警衛トシテ、川路弥四郎列・宮内

雄七列相詰候事

一、官軍小簷相渡リ

一、大総督府より姉ヶ崎合戦之砌戦死手負七両式分ツツ被下候、但此隊

戦兵石塚市太郎・藤崎壯之助・黒江嘉次郎三人江同断



一、閏四月廿六日 晴 滯陣、酒井屋敷

一、同廿七日 同断

一、同廿八日 同断

一、同廿九日 同断

一、五月朔日 雨 滯陣、本込銃式拾四挺相渡、(朱)是迄ミ一ニベル

銃之所始メテスナイドル

一、五月二日 雨 滯陣

一、五月三日 曇 田町御屋敷ニテ本込銃玉打、奥州白川先鋒迄黒

田・田実差越事

一、同四日 曇 滯陣

一、同五日 酒井屋敷滯陣、隊中酒会いたし候、大円寺墓所参詣

一、五月六日 雨 滯陣、奥州白川去ル朔日攻落、大合戦之由、賊

兵七百三拾人余戦死之由、此藩戦死六人手負三拾人計

一、同七日 雨 滯陣

一、同八日 雨 同断、芝三田屋迄玉葉警衛として差越候、隊長儀

城中出勤

一、同九日 曇 滯陣

一、同十日 半雨 滯陣

一、同十一日 滯陣、白川より黒田・田実両士帰陣、去ル朔日合戦

官軍大勝利之由

一、同十二日 雨 滯陣、古衣裳売払式ノ五百文

一、同十三日 雨 滯陣、刀拵出来

一、同十四日 雨 滯陣、白川・宇都宮合戦手負人数着番横浜之様

上野山内集屯賊兵、明十五日早天討方之段、田安殿江御達シ賊兵江同断

一、五月十五日 雨 江戸上野山内集屯賊兵征伐トシテ、曉七ツ時

大下馬江各藩相揃進撃、湯嶋より斥候ニ而合戦、此隊者先鋒正面江攻掛

候処、唐鎌勘助討死、此処江賊台場等諸所江有之候、賊大砲正面江五挺

有之、六ツ半時分より八ツ時迄黒門前合戦、夫より市中焼下谷より攻掛

直ニ山内江攻入、寺内諸所焼払大勝利、七ツ時帰陣、此藩戦死八人手負

式拾九人、黒門前攻入之節肥後藩横矢ニ而味方兵拾人死、正面江因州、

肥後・薩、横入江長・佐土原・大村・攻口賊戦死手負三百人程

一、五月十六日 昨日戦死人数大円寺江送り、隊中参詣

一、方今賊兵具所、初武心を愧候ニ付、今日より先諸見付門々ノ切、嚴

重ニ人別可相糺事、但町人百姓等濫り通行可為勝手事

一、兼而御軍令ニも被仰出候通、猥ニ民家を放火シ家財を採る等、乱狼

藉間敷無之様、精々可相心得旨、猶改而被仰出候事 大総督府参謀

追而御達之趣ニ付、弥明十五日三字迄大下馬江可相揃事

薩藩外ニ略ス

五月十四日被仰出事

一、五月十七日 雨 非番

一、同十八日 雨 当番

一、同十九日 雨 非番、分取金三朱ツツ配分

一、同廿日 天 当番

一、同廿一日 曇 非番、大円寺戦死墓江参詣

一、同廿二日 当番、白川口より四元角右衛門着陣

一、同廿三日 非番、四元同道大円寺参詣、宇田川屋酒会之上南出

張

一、同廿四日 晴 滯陣当番

一、慶喜伏罪之上者、徳川家名相統之儀、祖宗以来之功勞被思食、格別之處、田安亀之助江被仰出候事、但城地祿高等之儀ハ追而被仰出候事

閏四月

一、徳川亀之助

駿河国府中之城主ニ被仰付、領知七拾万石下賜候旨被仰出候事 但、

駿河国一円其之余は遠江国、陸奥国於両国下賜候事

一、一橋大納言、田安中納言

自今藩屏之列ニ被加候旨被仰出候事

一、水野出羽守

今般徳川亀之助駿河国府中城主ニ被仰付同国一円下賜候ニ付、追而所

望被仰付候間、兼而用意可有之旨御沙汰事

一、本多紀伊守、瀧脇丹後守

右同断

一、高家之輩、自今朝臣被仰付候事

一、五月廿五日 晴 滯陣非番、上野分取彦分式朱ツツ配分

一、五月廿六日 滯陣当番

今般上野山内屯集之賊徒追討之節、終日大奮戦、忽遂掃撃候条、深感賞候、尚成功分次第速ニ可遂奉聞候、弥誠忠勉勵可有之、仍感状如何

薩藩隊長中

大総督

一、軍送診察之上、急出張難調病症之者ハ、夫々可送返事、右規則之通

永世相守者也

軍防局

右一件

一、別紙之通、今般御規則被為定候ニ付而者、三道出兵之藩々ニも御通達可被成候 軍防局

右一紙

口述

一、別紙三通之通、從軍防局被達候間、諸藩出兵末々迄迄不洩様、可被達候、大総督宮被命候事

四月十七日

於駅々姓名をも不申聞 無賃錢ニ而宿加籠申付不法之振舞有之、宿々村々大ニ苦ニ候段相聞得、万民御安撫之叡慮ニ背キ候次第、甚以如何之至候、依之今般別紙之通、御規則被相定候条、諸軍一同嚴重可相達旨御沙汰候事

右一紙

一、行軍之節、駕籠一切無用たるへく事

一、病氣足痛等者、□所江滞在加療養平愈次第、其手々江可致參陣候事

一、五月廿七日 晴 滯陣非番

一、同廿八日 晴 当番、奥州白川出兵被仰付候ニ付、鮫図出張

金式分被下候

一、同廿九日 江戸出軍、千住、草加一泊、嶋津左衛門殿家来吉留伝之進此隊戦兵之場ニ而入隊

一、一番小隊付役坂元彦之進入隊事

一、五月晦日 草加出陣、糟壁昼飯、杉戸一泊

一、六月朔日 杉戸出軍、栗橋昼飯、古河一泊、土井大炊頭城下

今晚遊会

一、同二日 晴 古河出軍、間々田屋飯、小金井一泊

一、同三日 小金井出軍、雀宮屋飯、白沢一泊、宇都宮合戦之砌戦

死場所江参詣、大砲隊付役谷山宗太郎、岩重伴次郎入隊、江戸より白沢迄山坂成シ

六月四日 晴

一、白沢出兵、病氣ニ而宿加籠より自分賃錢を以通行、氏家、喜連川屋飯、作山泊り

同五日 晴

一、病氣ニ而作山滞陣、兵糧方より金巻両相渡候

同六日 半雨

一、作山出立、宿加籠ニ而病人共四人列通行、大田原、鍋掛屋飯、芦野泊り

一、横浜より藤崎壯之助参り候

同七日 半天

一、芦野出立、白坂屋飯、白川着陣、尤中仙道先鋒白川滞陣ニ而毎日合戦、敵番兵味方番兵所迄ハ半里之内有之候、御箆持川畑直太郎・永谷岩之丞入隊

六月八日

一、白川在陣、賊兵江番兵所より大砲打掛候事、棚倉海道江番兵

一、京より中尾惣右衛門・伊地知吉次郎、御左右飛脚トシテ着陣

同九日

一、白川在陣、二番分隊番兵、金三分五月御賦請取、金式朱わら錢請取

同十日

一、白川在陣、一番分隊番兵

同十一日

一、白川在陣、二番分隊番兵

一、六番隊付役永田戸次郎・川口左一郎入隊

一、中尾惣右衛門・伊地知吉次郎京都江出立

同十二日

一、白川江四方より賊兵攻掛、早天砲戦相成、一番遊撃隊一分隊田嶋村江押寄合戦、我兵賊の後江相掛横矢入追討

一、隊長之者一人戦兵一人討留いたし候

一、我隊之戦兵黒田運次討死、同永井嘉一郎手負

一、田嶋村江番兵差出

六月十三日

一、白川在陣、金式分式朱汁代わらち錢、昨日手負永井嘉一郎横浜之様被差遣候

同十四日

一、白川在陣、巡羅

同十五日

一、白川在陣

同十六日

一、白川在陣、八ツ時分長州番兵所相図砲打操出シ

同十七日

一、白川在陣

同十八日

一、白川在陣

同十九日

一、同、巡羅、金式分汁代わらち錢請取、先鋒総督岩倉殿より鯛并なら漬被成下候

同廿日

一、白川在陣、五番隊付役川路万之助・瀧間清右衛門入隊、六番隊野津七次より川路先生<sup>江</sup>御用訳申来、差越候処、川口左一郎・永田戸次郎去ル十一日兩人落行候ニ付、其隊<sup>江</sup>相見得次第早々届申出様七次達シ、然処四役場<sup>江</sup>申出置入隊いたし段も申出候処、御軍令いたし度達シ、右段本營<sup>江</sup>申出、其上六番隊<sup>江</sup>御断候得共不聞、隊中を以押掛候様七次達シ我隊も其用意本營<sup>江</sup>も届申出置待居候処、小隊長面々吟味相成、無事相濟酒会

六月廿一日

一、白川在陣、病氣、川口・永田京都之様出立被仰付、隊中より五両饒別、山内喜助入隊、二番分隊巡羅

同廿二日

一、白川在陣、病氣

同廿三日

一、同、病氣、金壹兩六月御賦、汁代わらち錢分取請取

同廿四日

一、棚倉征伐、我隊・二番小隊・四番小隊・六番小隊一同進撃、中途より合戦落城、城焼払、拙者并牧の弥右衛門・高須太郎三病氣ニ而白川在

陣

同廿五日

一、白川大垣番兵所<sup>江</sup>賊兵攻掛合戦

同廿六日

一、白川出兵、金山棚倉着陣、中途<sup>江</sup>台場多有之候

同廿七日

一、棚倉滞陣、近在<sup>江</sup>巡羅、白井吉十郎・永井彦太郎同道ニ而差越、大 小拾五本分取持帰庭鳥買入候

同廿八日 小雨

一、棚倉出軍、堤村転陣、黒羽藩同断、釜ノ子村<sup>江</sup>巡羅、川原田村之賊兵を見る、今晚釜子宿陣、此処<sup>江</sup>館林藩巡羅兵来り、黒羽・館林等申合 明朝川原田村賊追討いたし段、訳合軍議

六月廿九日

一、六ツ時前釜子操出シ、川原田手前黒羽之大砲式挺、村近<sup>江</sup>小砲隊大 砲六はち相凶進軍砲戦、諸所討払又ハ焼払も有之、白川<sup>江</sup>切通合戦、右 成行白川本營<sup>江</sup>申出候

七月朔日

一、堤村在陣

一、御兵具隊半隊長 篠崎彦兵衛 右之通被仰付候 本營

同二日

一、堤村出軍、釜子転陣、黒羽申合川原田村二夕子塚村辺<sup>江</sup>巡羅

七月三日

一、釜子村在陣、番兵、宇都岩太郎・久木村勇之進横浜より着陣

同四日

一、釜子村在陣、御酒頂戴、賊地江かん者差遣候、賊兵近辺江操出之由

同五日

一、釜子村在陣、御酒并牛肉一疋頂戴

同六日

一、釜子在陣、六ツ時分黒羽藩申合、中島・矢吹辺江巡羅、矢吹より一里半先江賊屯之由

同七日

一、釜子在陣、金壹両野菜わらち銭、中島江賊相見得段申来候、直ニ出軍いたし候処逃去

同八日

一、同、在陣

同九日

一、同、在陣

七月十日

一、釜子村在陣、番兵、金貳朱わらち銭

同十一日

一、釜子在陣、中島江巡羅、金壹分ツツ分取配分

同十二日

一、同、昨日同断

同十三日

一、同、在陣、賊兵関和子江相見得段申来、直斥候差越候処、矢吹辺江

引取

同十四日

一、釜子村在陣

一、岩城平落城之由、賊二本松之様引取之由、中島・関和子江賊操込之由ちうしん有之、斥候トシテ差越置候事

同十五日

一、釜子在陣、昨日賊兵共矢吹之様引取之由、今晚黒羽稻沢常之助・堀江銀次郎被参酒会、隊長棚倉江差越候

七月十六日 雨

一、釜子村在陣、番兵、土州・彦根出張、浅川江早天合戦相成、斥候トシテ又々黒羽申合進撃いたし、敵後より横矢を以砲戦いたし候処、直逃去、川路正之進・緒方藤之丞手負、土州医師相頼養生、釜子之様列帰り大勝利、尤釜子より二里

同十七日

一、釜子在陣ニ而昨日合戦一条、白川本營江届申出トシテ、矢野泰助同道ニ而差越候、尤手負面々病院迄列越候、金五両本營より御酒料トシテ頂戴

同十八日 半雨

一、釜子在陣、篠崎彦兵衛・坂口直之丞棚倉本營江差越候事

同十九日

金拾両、右隊用金之内隊長遣、

金五両、右緒方藤之丞江隊用金之内遣候

一、隊用金之内、手負戦死人数五両ツツ遣候様吟味

小頭見習、久木村勇之進・宇都岩太郎・川路弥四郎

小荷駄付、矢野泰助・坂元彦之進・永谷岩之丞

一、隊用金之内、手負戦死人数五両ツツ遣候様吟味

小頭見習、久木村勇之進・宇都岩太郎・川路弥四郎

小荷駄付、矢野泰助・坂元彦之進・永谷岩之丞

右之通被仰付候

七月十八日

本營

一、今晚賊押寄候段案内有之、番兵差出參候事

七月十九日

一、釜子在陣、金式朱ト四百四拾八文ツツ浅川戰爭分取配分

一、隊長并緒方横浜病院被差遣候段白川より来

七月廿日 晴

一、釜子在陣、番兵、赤羽海道江台場つき

同廿一日

一、右同、番兵

小隊長手負ニ付、快氣迄間篠崎彦兵衛江被仰付候

本營

同廿二日

一、釜子在陣、赤羽迄巡羅いたし、賊兵方より砲戦打出候、黒羽藩申

合見張等差出置候処、川田原村江火掛早々賊引取候

一、廿四日進撃之節順序

先鋒ノ彦根・館林、二陣ノ薩、三陣ノ長州、四陣ノ土州、五陣ノ大垣

六陣ノ忍・黒羽、右之通被仰付候

七月廿二日

先鋒總督府參謀

一、廿四日五字揃棚倉出軍、但三春進撃ニ候へ共衆ニ候者須賀川等唱

一、諸藩順序相立候上者、猥りに他隊を越候儀不相成候

一、合詞、富士か、山

夜分計肩表白木綿を以左肩より右脇下へ引廻ス

一、旗之定、尋ルニ者丸を書、答ルニハ十ノ字成ス

一、サゲ銃斥候隊之外不相成

一、戰場邇田々畠々外兵隊混ニ候儀禁

一、白鉢巻不相成ス

一、岩城平より之進海軍旗印、全赤地白十ノ字、右二色を用ひ筈

右條々棚倉參謀方御達ニ相成候事

七月廿三日 晴

一、釜子在陣

同廿四日

一、五字釜子出軍、黒羽申合上野出嶋ニ而大垣藩等揃、石川迄進軍一泊

此処棚倉勢出揃

同廿五日

一、石川出軍、蓬田泊り之筈候へ共、少村ニ而彦根藩・館林藩・薩、田

母神一泊、久木村勇之進・宇都岩太郎・拙者斥候相勤候

七月廿六日

一、田母神出軍、三春一泊、但今朝迄は賊兵陣營之由、然共賊逃去

一、城之儀ハ官軍請取、尤国主寺院江引取被仰付候

同廿七日

一、三春在陣、番兵斥候、岩城平遊軍着陣

一、七ツ時分二本松領分小浜江操出被仰付候、長州三小隊・家隊・大砲

隊小浜宿転陣、番兵

七月廿八日

一、小浜在陣、巡羅として長州申合、賊兵番兵所近所迄差越直引取

同廿九日 晴

一、五字本宮・小浜惣勢二本松進撃、尤家隊ハ先鋒ニ而、小浜より一里先江大川有之、一番ニ川越進撃いたし砲戦、竹田門より城中江攻掛、城并家来屋敷焼払七ツ前落城、其節家隊戦死、満喜祐次郎・藤崎壯八郎、手負、藤崎吉次郎

八月朔日

一、二本松在陣、非番、戦死面々三春之様差送り相成候事

同二日 (朱)酒沢山アリ

一、二本松在陣、当番

同三日 (朱)本宮ヨリ各隊江牛一頭宛配当、酒ニテにしめ

一、同、非番 (朱)丹荷に酒ヲ入レ柄杓ニテ吞方

同四日

一、同、当番

同五日

一、暮六ツより会津道江番兵、六日朝交代

同六日

一、二本松在陣、当番、金式朱わらち錢請取、満喜・藤崎両士四列三春之様墓所参詣

同七日

一、同、巡羅、手負人数岩平之様御差送り

同八日

一、二本松在陣

同九日

一、同、坂元彦之進白川江隊用ニ付差越、刀壹本料遣置候

八月十日

一、二本松在陣

同十一日

一、二本松在陣、会津口番兵、御国状相届拜見

同十二日

一、同、金壹兩壹分三朱七月野菜代受取

同十三日 雨

一、須賀川江玉薬警衛、家隊操出シ、本宮、郡山、須賀川着陣

同十四日

一、須賀川在陣、酒会

同十五日

一、須賀川出軍、横森村江一泊

同十六日

一、横森村出軍、本宮へ泊り、金式朱わらち錢請取

同十七日

一、本宮在陣、一番分隊番兵、白川より坂元彦之進帰陣

一、遠武半右衛門・宇都宮岩太郎二本松本宮江御用引合トシテ差越、在陣相成候事

八月十八日

一、本宮在陣、二番分隊番兵、坂口直之丞病氣ニ付三春之様御越、荷物

同断、割宿ニ而酒会、(朱)田中藤太酒一升吞、依テ拙者モ一升一口ニ吞、

酒屋□□ラス

八月十九日

一、同、遠武・宇都歸り会城進撃相突、(朱)本夜ハ各々金ノアリタケ酒買入大酒会之事

八月廿日

一、本宮在陣、金七兩分取配分、二本松惣勢玉井村操出シ合戦相成、斥候宇都・久木村差越候、賊兵より大砲打出砲戦

一、先年征伐之砲、坊内峠攻入候由申伝へ候

一、明廿一日会津征伐軍儀、左之通順序

一、長州 一、薩州 一、土州

一、大垣 一、長州 一、薩州

一、土州 一、大垣 一、薩州

一、土州 右坊内峠攻口

九番隊・十一番隊・十二番隊・遊撃隊・兵具隊面々、正面江攻掛 先鋒被仰付候

八月廿一日

一、本宮晚七ツ時進軍、玉の井村揃、会津境坊内峠遊撃隊・家隊先鋒正面江攻掛直ニ砲戦、尤長州先鋒より七ツ時分攻落、賊方大砲七挺分取野陣、兵糧不参夜四ツ時分兵糧参り、今晚雨ふり、夫卒一人戦死

八月廿二日 雨

一、先鋒ニ而追討、猪苗代一番のりいたし落城、夫より又々追討、十六橋大合戦成大砲壹挺分取、外隊之儀猪苗代滞陣之筈候処、四番隊・九番隊・家隊合戦ニ付、各藩隊々進軍相成、野陣を取分取砲一挺を以賊江砲撃いたし候、夜九ツ時分番兵次渡シ、会城迄二里夜明ニ而砲撃いたし夜明賊方より押掛、夫より会城迄直ニ追討○朝五ツ時分城門江攻付大合

戦いたし候へ共、暮時分相成三四丁程引取台場等固め今晚も合戦、城近辺江火掛城中より賊兵操出砲戦いたし候、賊兵討死多有之、家隊一人も手負死人無之候、官軍土州戦死手負口拾式人、尤先鋒

八月廿四日 小雨

一、台場固め、四ツ半時分佐土原江次渡置陣營江引取、然共佐土原江トシテ操出シ、城外堀台場きつき固を付、家来屋敷焼払込円相済引取之上巡羅いたし、分取有之候

同廿五日

一、肥前藩応円トシテ操出、番兵一番隊、家隊合戦、今晚砲戦いたし候処、桐野藤太郎手負

一、今晚山之上大砲台場きつき城砲打込候、廿六日各隊江次渡、陣營江引取

八月廿六日、同廿七日

一、会津町屋宿陣

同廿八日

一、城外堀六日町口固め、大砲隊式挺を以固め砲戦いたし、廿九日次渡陣營江引取

同廿九日

一、長州固め江賊攻掛、土州并家隊応円トシテ操出直ニ合戦、家隊之手負死人無之候、賊死人多有之候、夕方ニ操引いたし引取候

同晦日

一、甲賀町口固め、九月朔日朝次渡、陣營江引取

九月朔日



一、会津在陣、手負面々三春之様御差送り相成候事、金沓両三分式朱先月汁代相受取、横浜病院より緒方藤之丞・永井喜一郎帰陣

九月二日

一、山之上台場固め、三春病院より坂口直之丞・高須太郎三・西助之丞帰陣

九月三日

一、会津在陣、金式拾兩分取配分

御兵具隊小頭見習、緒方藤之丞、右之通被仰付候

九月三日

本營

同四日

一、六日町口固め、夜八ツ時分各隊江次渡、越後口出兵被仰付候

同五日

一、九字揃、越後口出軍、彦根・土州・薩州・尾州・長州・紀州・大垣操出シた、み川迄差越候処、賊兵直攻落川向江、官軍彼方江川船遣、直ニ味方兵申合一泊り、此川迄会城より四里、此辺高山江ハ大雪ふり

九月六日

一、た、み川より会城帰陣、直ニ日光口応円トシテ操出、中途味方打いたし土藩山崎銘七郎手負、尤緒方・宇都・久木村・拙者斥候ニ而砲発いたし候故、土病院迄列越、右成行本營江申出候、暮時分陣營江引取

九月七日

一、天寧寺口固、今晚賊兵番兵所近辺江参り、砲戦稠敷合戦候

九月八日

一、会津在陣、非番

同九日

一、三日町口固、市中江出火有候処、賊大砲小銃打立攻掛候へ共、不引取夜通ニ合戦いたし候

同十日

一、二番隊山之上固前候へ共、陣營出火ニ付操替候

一、越後口出兵之各隊面々着陣

一、隊長横浜病院より帰陣

同十一日

一、会津在陣、非番

同十二日

一、不明口固、越後出兵、家隊江拾五人入隊

同十三日

一、在陣、非番

同十四日

一、不明口固

一、賊城一同進撃九字より初り、長州・大垣・黒羽・諏訪山攻落、此処台場きつき固めいたし合戦

九月十五日

一、在陣、非番

一、会賊城一同砲撃初り、斥候トシテ川路弥四郎・森源之進・坂口直之丞・遠武半右衛門差越居候

同十六日

一、天寧寺口固め

同十七日

一、青木村屯集賊兵打、七番隊先鋒、佐土原三小隊、宮之城一小隊先鋒  
家隊之儀ハ跡ハ跡より氣を付、御達シ之通操出候へ共、家隊進軍、直ニ合戦  
三里程追討、暮時分引取、諸所焼払

一、内藤助左衛門家内男女共十八人、寺内ニ而腹切、右寺焼払候

九月十八日

一、山之上固、東山湯治江差越入湯いたし直帰り

同十九日

一、市中巡羅ニ而入湯差越

同廿日

一、在陣非番、東山湯治トシテ差越候

同廿一日 (宋)此日監軍中村半次郎、城中ニ入ル

一、甲賀町口固

同廿二日 (宋)本朝城外ニ降参ト大文書差出ニ相成候

一、会国主降参願書、右ニ付城門外江国主罷出降参相成、此節は参謀并  
監軍差越降参之上、武具惣而請取父子其外寺院引取、官軍警衛相付、城  
請取越前江御預り、国主初家来之面々大小惣而請取相成候、会兵隊之儀  
猪苗代江差遣相成候、会手負青木村江差遣、官軍より養生兵食等も差遣  
相成候、城中勿論諸所江賊兵死人多有之候、女兵隊も有之、尤乱髪異人  
服大小差候之由

一、本丸・西之丸・二之丸・三之丸等有之候

九月廿三日

一、六日町口固め、緒方・篠崎庄内辺聞合被差越候、遊撃隊付役須賀印

新助殿明日出立ニ付、金拾兩御国許江頼遣候、金壹兩わらち銭受取

同廿四日

一、不明口固一番分隊、会城降参ニ付、東海道・東山道出軍之兵隊、一  
番隊・二番隊・三番隊・四番隊・五番隊・六番隊・一番遊撃隊・一番大  
砲隊・二番大砲隊歸陣被仰付出立事

九月廿五日

一、会津在陣、家隊も帰陣被仰付候へ共、庄内出兵預り近々之内出張之  
筈

同廿六日

一、甲賀町口固、会藩預書差出候ニ付、会議所参謀江差出置候

同廿七日

一、在陣非番、白井幸十郎病氣ニ付、横浜病院迄差越候

同廿八日

一、在陣

同廿九日

一、在陣、庄内出軍被仰付御請、土州江十六れん玉葉相談ニ差越候へ共  
無之候

一、夜五ツ時分、緒方・篠崎庄内より帰陣ニ付、出陣御差止、尤庄内降  
参

一、会城降伏ニ付而者、君臣共夫々退居謹慎之場所も相定候処、猥ニ会

津藩士之格ニ偽唱へ、乍帯刀諸所致徘徊行輩も有之由、右之者譬へ真ニ

会津人たり共、主人之命令をも不奉者ニ付、於諸在取押へ致手向候者、  
切捨可為勝手次第もの也

九月廿四日

会津在陣軍鑑

各藩略ス

一、御国許御使者着、忠義公御筆左之通、皇命ヲ蒙リ逆賊征討テ奉シ候  
而致尽力候儀、臣子職分相当之儀等者候し、各順逆之名儀致明弁、当春  
より追々ニ賊徒令敗潰、城を抜キ若ク共際難戦苦闘も有之候處、粉  
骨碎身死力を尽シ、日を積月を重、愈精力堅固にして終に敗走を不□、  
実ニ古戦にも無處愧十分之働忠節之程令感賞候、其内戦死ニ至り候も不  
少、或ハ手疵療養不叶も有之、無限病ハ慟哭之至、手負も亦餘多有之、  
甚哀傷をし者候間、此上如何計か及太儀候も不被量候得共、兎角平治ニ  
不至候、而者、御徳威も難被為立、万民塗炭之苦罷成兼候次第候間、猶  
亦愈尽力有之候儀頼存候事

八月

久光

忠義

右之通到来、会津在陣之砌奉拜見候

十月朔日 雪ふり

一、会在陣、来ル六日仙台江出軍被仰付候

一、明治元年に改年

一、城門固水戸請持、相詰居候処御吟味之訊有之、家隊より請取相詰候  
事、水戸藩国元之様帰軍

十月二日

一、会在陣、城門固、東山入湯トシテ緒方・永井・永田同道差越、金巻  
兩三分老朱九月御賦、同志兩分取四ツ割志ツ

同三日

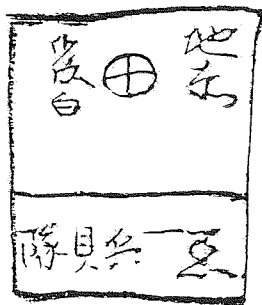
一、隊用に付白川表江矢の泰助同道、会津出立、みよ宿一泊

同四日

一、みよ宿出立、せひしとう、白川着陣

同五日

一、白川在陣、御紋附大旗注文左之通、黒羽藩安藤小太郎出會



同六日

一、白川在陣、會分品売払金百六拾兩

一月七日

一、白川在陣、久木村・宇都両士会より着いたし候処、隊之儀は白川江  
引取被仰付候

十月八日

一、白川在陣、隊中着陣、今晚四ツ時分本營より御用有之、二本松之様  
出兵被仰付候

同九日

一、白川出兵、緒方同道ニ而宿割に差越、中途ニ而福嶋表出軍、永田宗  
之進使被參惣勢一往東京江御引取被仰付、右ニ付白川引取

一、白川 一、白坂 一、芦の 一、大田原

一、作山 一、氏家 一、白沢 一、雀宮

一、小金井 一、ま、田 一、古河 一、取手

一、杉戸 一、越谷 一、千住泊り

十月十日

一、白川在陣、宿割出立

十月十一日

一、白川出立行軍、戦死墓所<sup>江</sup>参詣、白坂昼飯、芦野一泊、宿々行軍相  
究

同十二日

一、芦の出立、大田原昼飯、作山へ泊り

同十三日

一、作山出立、氏家昼飯、白沢一泊

同十四日

一、白沢出立、雀宮昼飯、小金井一泊、宇都宮戦死墓所参詣、此墓半隊  
長井上猪右衛門・兵士内藤金治

同十五日

一、小金井出立、間々田昼飯、古河一泊、当所より川下り、東京<sup>江</sup>着船  
之内船手当之事、隊長之儀は東京府<sup>江</sup>宿手当として被差越候

同十六日

一、古河出船、川下り、同十七日朝東京府日本橋<sup>江</sup>着船、朝飯いたし行  
軍、大円寺戦死墓所<sup>江</sup>参詣、鮫凶宿陣

十月十八日

(宋)川崎屋釜屋

一、鮫凶在陣、宿泊致候事、大病院白井幸十郎見舞として差越、帰掛ニ  
短筒壺挺取入金拾六両、羽織壺枚取入金四両

一、金三両三分分取配分

同十九日

一、在陣、桜田御屋敷<sup>江</sup>御用有之差越候、夜四ツ帰り、金拾壺両仕舞料  
請取、滞在中昼夜酒会之事

同廿日

一、在陣、今晚宿割トシテ深瀬庄次郎同道出立、廿一日藤沢一泊  
同廿二日

一、藤沢出立、小田原一泊、旅籠一度分差朱ツツ、右之通官軍面々究

同廿三日

一、小田原出立、箱根権現御社<sup>江</sup>参詣、三嶋一泊、箱根ハ雪ふり

十月廿四日

一、三嶋出立、吉原一泊

同廿五日

一、吉原出立、興津一泊

同廿六日

一、興津出立、岡部一泊

同廿七日

一、岡部出立、日坂一泊、隊長ハ京都之様出立

同廿八日

一、日坂出立、見附一泊

同廿九日

一、見附出立、新井一泊  
同晦日

一、新井出立、吉田一泊

十一月朔日

一、吉田出立、岡崎一泊

十一月二日

一、岡崎出立、宮一泊

同三日

一、宮出船、桑名着船、直ニ京都之様出立、四日之夕方着陣、相国寺内

林光院江戦死墓所参詣

一、宮船渡シ之節、深瀬短筒を以鴨志羽打留直料理

十一月五日

一、京都在陣、同方面々相揃酒会

同六日

一、在陣、川路、矢の同道宿手当事

同七日

一、伏見迄差越直ニ帰京

同八日

一、隊着陣、直ニ丸山出張、隊中出張払金百六拾五兩

同九日

一、京出立、伏見泊り、金三兩壹分分取配分

同十日

一、伏見在陣、御酒肴被成下頂戴

一、石清水八幡宮御社江参詣、金三兩被成下、同六兩八ヶ月分重賦、同  
三兩道中賦

十一月十一日

一、伏見在陣、金八兩被成下

同十二日

一、伏見乗船、大坂着陣

同十三日

一、大坂在陣

同十四日

一、大坂在陣、忠義公御国元より御光着

同十五日

一、大坂在陣、西本願寺ニ而忠義公御目見被仰付、其上御酒料トシテ金

五拾兩半隊長篠崎彦兵衛江御直渡シ、各隊同様

十一月十六日

一、大坂在陣、上様御上京

同十七日

一、大坂乗船、川口迄出船之处、浪高候故、新堀着陣

同十八日

一、大坂新堀在陣

同十九日

一、在陣

同廿日

一、大坂乗船、英船乗附

同廿一日

一、大坂出帆

同廿四日

一、逆風ニ而地方山高不見

同廿八日

一、鹿兒島江着船、直ニ上陸いたし、石燈通宿御賄被成下

(朱)平ノ萩原家江差越、本夜大サワキ致候事

於御木屋場、同方取会

十一月廿九日

一、陸軍所江御届申出候、行軍ニ而隊長方江差越 (朱)隊中焼酎吞致シ

一、今度出軍ニ付、格別戦功之者は其段申出候様、且又戦争次第も御用

相成候間、是又巨細取調申出候様、軍務官より御達シ相成候段申来候間

追々帰隊之隊長監軍等より前文次第細々申出様、可被申渡候

一、二月以来、伏見其外奥羽・北越到来戦争面々、難陣相成候付而者、

勲勞又々戦死等之次第不洩様、其隊々隊長監軍等より取調無遅滞申出候

様、可被申渡候事、右之通陸軍所御達シ

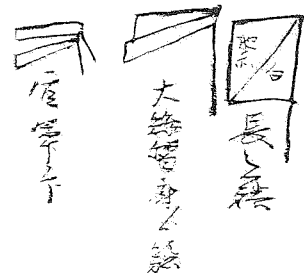
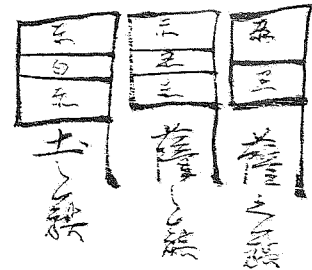
十一月晦日

一、鹿府出立帰陣、尤馬喜足請取払ニ而被下候、伊集院町迄親類又ハ同

方面々向として被参り候、(朱)此所ニテ焼酎吞、帰着ノ上夜明シニ焼酎吞

アリ

一、出軍之節役者面々手旗左之通



右之通

薩摩一番兵具隊等印

奥州浅川戦争之節手負

野州宇都宮戦争之節戦死

小隊長、川路正之進

半隊長、井上猪右衛門

奥州二本松領分玉の井村戦争之節手負

小頭、遠武半右衛門

明治元年辰十一月晦日帰陣いたし、荒まし留置

萩原十吾

古河源助

金式朱御酒料トシテ被下候

明治二巳五月

一、明治二年巳十月

常備隊八小隊被召建候

三番小隊一等兵士 萩原十吾

午五月小頭被仰付御請

右之通被仰付候

十月

軍務局

俸禄六石

右之通被仰付候

右者此節兵隊被召建候ニ付、俸禄迄被仰付、年中六石取

一、明治三庚午八月

常備八小隊被召建候、都合拾六小隊被召建候

第一大隊、第二大隊、右兵器大隊等有

右軍功ニ依り、明治二年巳七月、長里村士族萩原左衛門方ヨリ分家

ヲ立テ候事

萩原寿吾團

源貞頭

(朱)奥州会津滞左之節、慶応四年十月朔日、明治ト改年御達シ相成、明治元年改称ス

(朱)明治十年丁丑戦争出軍、肥後熊本、山鹿其他諸所日向延岡迄出兵戦ヒ

無事ニ帰村、押伍列、分隊長、小隊長、中隊長迄昇任

貞頭